

令和３年度

「大学のスポーツ資源を活用した地域活性化拠点形成・
大学スポーツアドミニストレーター配置支援事業」

成果報告書

(令和３年７月２８日～令和４年３月１８日)

令和４年３月



目次

1	事業の概要	3
1.1	事業の趣旨及び目的	3
1.1.1	事業の背景 ～本学の理念・大学におけるスポーツ分野の取組の戦略的な推進～	3
1.1.2	地域連携の取り組みと課題	4
1.1.3	事業の骨子と展望	4
1.1.4	事業のねらい	5
1.1.5	事業推進のパートナー	6
2	今年度事業の取り組みと効果	7
2.1	大学スポーツアドミニストレーターの配置の状況について	7
2.2	事業推進組織体制について	8
2.3	事業の内容	8
2.3.1	第1回コンソーシアム会議（7月）	8
2.3.2	熱中症予防セミナーの実施	9
2.3.3	「ロクハ荘体力測定会 with 立命館相撲部&バトン部」	10
2.3.4	「レッツ・エンジョイ・スポーツ！2021」	13
2.3.5	健康体験チャレンジ 「スマート R・バイク・ザ・ライド/コーディネーション・プログラム体験」	15
2.3.6	取り組みの可視化（3月）	18
3	今後の予定	19
4	総括	20

添付資料1「立命館スポーツ宣言」

添付資料2「地域連携事例集（抜粋）」

添付資料3「ロクハ荘体力測定会 with 立命館相撲部&バトン部」ポスター

添付資料4「スマート R・バイク・ザ・ライド/コーディネーション・プログラム体験」ポスター

1 事業の概要

1.1 事業の趣旨及び目的

1.1.1 事業の背景 ～本学の理念・大学におけるスポーツ分野の取組の戦略的な推進～

立命館大学の母体となる学校法人立命館では、教育研究機関としての使命を果たすために、立命館憲章を定めている。その中では、「立命館は、教育・研究および文化・スポーツ活動を通じて信頼と連帯を育み、地域に根ざし、国際社会に開かれた学園づくりを進める」とスポーツ活動の意義が位置づけられている。その上で、スポーツの価値、その教育的意義や地域コミュニティとの関係などをふまえつつ、スポーツの持つ力と役割をあらためて学内外に示すことを目的に「立命館スポーツ宣言」（添付資料1）が2014年に定められた。その中では、「スポーツを通じて、老若男女を越えた地域コミュニティの形成と発展に携わり、地域社会の健康で豊かなコミュニティづくりに貢献することを社会的役割の一つとする。」として、立命館スポーツの社会的な意義について触れられている。

立命館大学においては、三つの拠点キャンパスを置いており、衣笠キャンパス（1965年～）、びわこ・くさつキャンパス（1994年～）、大阪いばらきキャンパス（2015年～）と3府県にまたがる形で、教育研究活動に留まらず、地域連携活動等も含めて、さまざまな展開を行っている。大学スポーツにおいても、それぞれのキャンパスを拠点とした学生スポーツの活動を行うと共に、地域とも連携して、様々なスポーツ教室、スポーツイベントや地域連携企画を行っている。

このように、立命館大学では、スポーツを地域活性化に資するものとして明確に位置づけており、大学が有するスポーツ資源についても、それを活用し、社会をより良くするために積極的な取り組みを続け、高度化を試みている。また、スポーツを推進する部局として、1998年に体育会クラブの支援を中心的に担うスポーツ強化オフィスを設立し、20年以上にわたり、継続して大学スポーツアドミニストレーターの育成に努めてきた。現在は、将来を見越した経過の途上であるが、今後さらに大学スポーツアドミニストレーターの活躍の場を増やすと共に、今まで大学内が中心であったスポーツ強化オフィスの業務内容・役割を、産官民の各所との関わりにまで広げつつある。

高い競技能力を有したフラグシップとなるスポーツの推進については、2002年から取り組んでおり、現役のオリンピック代表選手だけでなく、卒業後に高いパフォーマンスを発揮する競技者など、高い競技能力を持つ選手を育成し続けている。特に、体育会全般のうち、大学として強化すべきクラブに対する制度である重点強化クラブ制度により、大学からスポーツアドミニストレーター配置も含めて競技の支援を行っている。本学では競技力向上のみならず、競技生活終了後のセカンドキャリアも見据えた上で、大学アスリートの学業の充実についても支援してきている。その成果の一つとして、立命館大学における学業ガイドライン・Student Success Program (SSP) による両立支援の取り組みを継続して行い、2020年度 UNIVAS AWARDS にて最優秀賞を獲得す

るに至った。特にアメリカンフットボールや女子陸上・フィールドホッケーでは大学日本一の獲得の競技実績をあげるとともに、学業面においても高い単位取得率を示しており、競技と学業を両立するセカンドキャリアも見据えた学生アスリートの育成に高い評価を得ている。

1.1.2 地域連携の取り組みと課題

立命館大学においては、各キャンパス所在地の自治体等と積極的に連携協力協定を締結し、様々な地域連携の取り組みを行っている。とりわけスポーツにおける連携事業は、びわこ・くさつキャンパス（滋賀県草津市）において、2010年にスポーツ健康科学部が設置される中、スポーツの高度化および運動による健康増進について、教育・研究の両面から、多くの取り組みを継続して行っている。但し、現状の地域連携の取り組みは、教育・研究・その他の分野で取り組む主体や関わる部署が異なっており、スポーツにおいても、学部との関わりや、教員個人との関わり、研究面での関わり、課外活動団体としての個別の取り組みなど、多岐にわたり、またキャンパスごとでの特色・特性も異なっている。

びわこ・くさつキャンパスでは、拠点をおく体育会クラブが、1994年のキャンパス開設以降、地域から応援・信頼される関係構築を目指して、スポーツ推進に取り組んできた事例が数多くある（添付資料2）。例えば、アメリカンフットボール部では、キャンパス設立からほどなく、地域でのフラッグフットボール教室を実施し、その成果として、草津市のフラッグフットボールの小学生・中学生のチームは、毎年のように全国大会で上位に入賞するようになるなど、大学のスポーツ資源がうまく活かされて地域の活性化につながっているような事例も存在する。

体育会クラブに所属する学生も、こういった地域に根差した取り組みを、人間的な成長も含めたチーム強化のために主体的に取り組んでいるケースが多く、学生成長の間としても寄与している。こういった独自の取り組みを、より地域に開かれたものとするためには、個別に取り組まれている様々なスポーツ活動について、何が不足しているのかを把握し、さらにスポーツでの地域連携を高度化していくためにも、活動情報の収集・把握・公表に取り組む必要がある。

1.1.3 事業の骨子と展望

びわこ・くさつキャンパスでは、健康増進に関わる取り組みも積極的に行われており、特に文部科学省『革新的イノベーション創出プログラム（COI STREAM）』のアクティブ・フォー・オールを進める重要な拠点ともなっている。そこで、このびわこ・くさつキャンパスを今次の事業展開の拠点とし、「大学のスポーツ資源を活用した地域活性化拠点」として位置づけていくことを目標とする。その上で、その取り組みをモデルとして、将来的に、他のキャンパスへ横展開を目指す。

具体的には、地域との連携コンソーシアム「立命スポーツ健幸キャンパス コンソーシアム」を形成すると共に、各主体が把握している大学スポーツ資源を活かした活動を集約した上で整理し、今まで活かされてこなかった大学スポーツの持つ可能性を確認する。その上で、コンソーシアムをプ

ラットフォームとして新たな取り組みを行っていくことで、地域と連携したスポーツ振興による地域活性化を行うと共に、地域と共に応援し支援していく大学スポーツの文化（する・みる・ささえる）を形成する。

このコンソーシアムにおける連携の中核を大学が担い、各主体間を調整し、また実際の事業の実施で中心的な役割を担うのが、大学のスポーツアドミニストレーター（地域連携事業推進担当）として位置付ける。従来は、大学内の職員や個別教員が、業務の一部として、スポーツに関わる地域との個別の連携について行ってきたが、今次の取組みの中で大学スポーツアドミニストレーターが地域に関わる業務を担うように関係を整理することで、一元化された大学スポーツ資源のさらなる高度な活用とともに事業化が可能となる。

1.1.4 事業のねらい

大きな視野で見れば、大学内での正課と課外に留まることなく、大学外の地域をキャンパスとして活躍することにより、学生自身の成長が促進され、また自己肯定感や有能感といった今後の社会で生きる力にもつながっていくものと考えられる。ただし、現状としては、大学外の地域の位置づけが利用する/利用されるという立場での位置づけとなっており、協働するまでに至っていない。そこで、以下の課題を解決し、新たな事業を展開することを「ねらい」とする。

- ① 本事業の拠点となる地域においては、びわこ・くさつキャンパスの位置する草津市において、「まち・ひと・しごと創生戦略」では、生涯にわたって健康を維持し、さらに幸福感を有している市民生活を達成する「健幸都市」を目指す目標を掲げている。この目標の実現に向かって数値目標を掲げているが、行政のみの取り組みだけでは容易に達成するのは困難な状況ともなっている。
- ② 大学の持つスポーツ資源の多くは、地域からの要請に応えるにとどまり、積極的に地域に提案するまでに至っていない。地域から見た場合に、例えば、スポーツ健康科学部で草津市教育委員会と連携して、スポーツ好きの子どもを育成するプログラムを実施するなどの成果は見えるが、大学のスポーツ資源をどのように利活用すれば良いのか見えない状況にある。

上記①②の課題を解決し、新たな事業を展開することを「ねらい」とし、大学スポーツ・アドミニストレーター（地域連携事業推進担当）が各主体間の調整、また実施を積極的に担う事により、スポーツ資源を通じて地域の健康増進などに深く寄与していくと共に、各主体間の相互理解を進め、大学スポーツ資源を活用した地域活性化の先進モデルを形成していく。そのためには、例えば、草津市が「スポーツ・健康まちづくり」に積極的に取り組んでいくための資源を提供するための調整を行い、現在行われている草津市のスポーツ振興計画の目標数値の達成に深く寄与していく、またそのさらなる推進に寄与していくなど、中期的な目標達成を通じて信頼関係を形成していく。そして、このような目標を達成していくためには、関係団体によるコンソーシアムで実情を共有する事

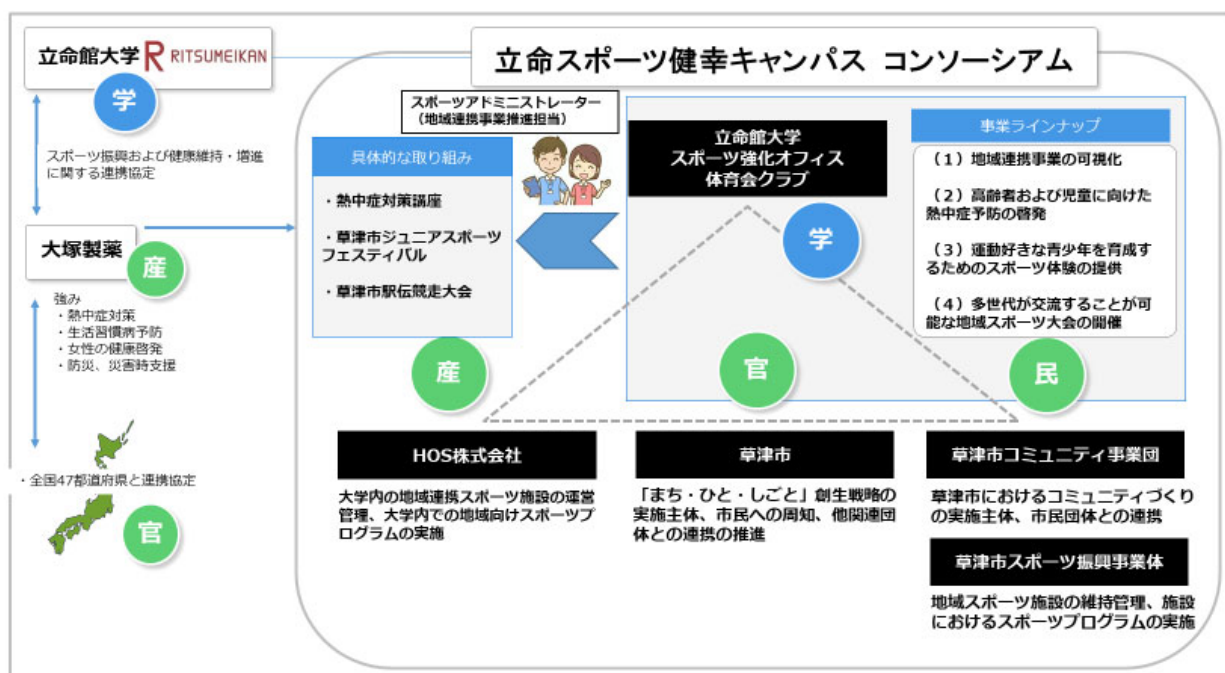
が重要となる。また併せて、目標を達成するための方法や大学スポーツ資源について、相互理解を深めると共に、地域と大学の双方にとって継続する成功体験を積み上げていく必要がある。

1.1.5 事業推進のパートナー

このような事業を進めるためのコンソーシアムを担う団体として、その地域自治体はもちろんのこと、地域のコミュニティ振興を行っている団体、また地域スポーツの核となる施設を管理する団体や、地域で活躍する企業など、幅広い参画が必要となる。このような多主体が参加するコンソーシアムが機能し、協働することによってはじめて、大学スポーツ資源を用いて、今まで一主体では到達できなかった人の健康増進などが可能になると共に、地域を核としたイノベーションが生じて新たなプログラムを作成し、スポーツ資源を活用した地域活性化が可能となる。

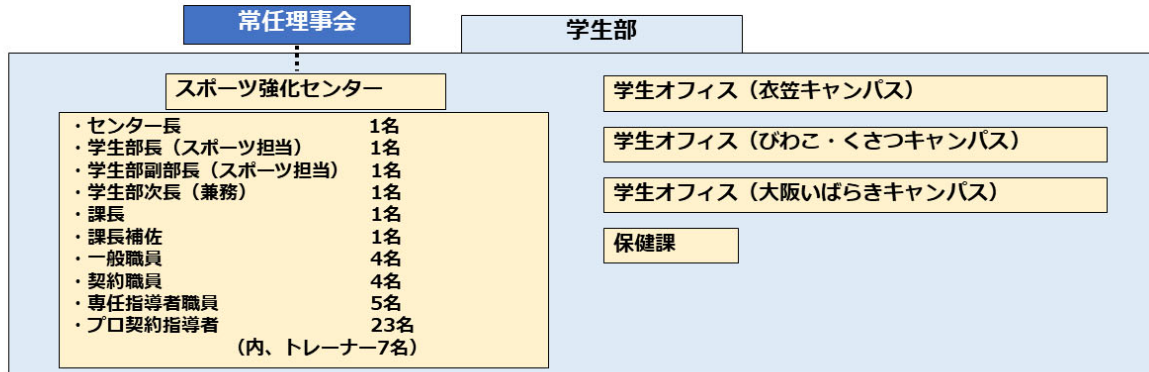
併せて、長期的な目標を達成し続けるために、このコンソーシアムによって、「大学スポーツ資源を活用した」地域のスポーツ・運動に関する前項に掲げる事業の PDCA を回し続けることが出来れば、学生も含めたより多くの者が肉体的にも精神的にも健康であり続ける社会の実現が可能となる。

なお、地域連携事業の付加価値として、熱中症対策の取り組みが想定される。立命館大学は2021年3月26日に大塚製薬とスポーツおよび健康維持・増進において、連携協定を締結した。大塚製薬は熱中症対策養成アドバイザーの講座運営のコンテンツを有しており、連携協定ではこの分野において協働することを確認した。



2 今年度事業の取り組みと効果

2.1 大学スポーツアドミニストレーターの配置の状況について



スポーツアドミニストレーター【業務内容】

<クラブ強化の取り組み>

- ・重点強化クラブの選定およびPDCAサイクルによる強化政策の策定
- ・重点強化クラブ指導者の処遇を含む管理、マネジメント
- ・強化のための基盤予算、プロジェクト予算、政策予算の制度設計、実行
- ・強化のためのスポーツ選抜入試の支援
- ・スポーツ分野に関わる奨学金の制度設計、実行
- ・附属校（4校）の競技活動実態の調査、中高大の一貫したスポーツ政策の検討 など

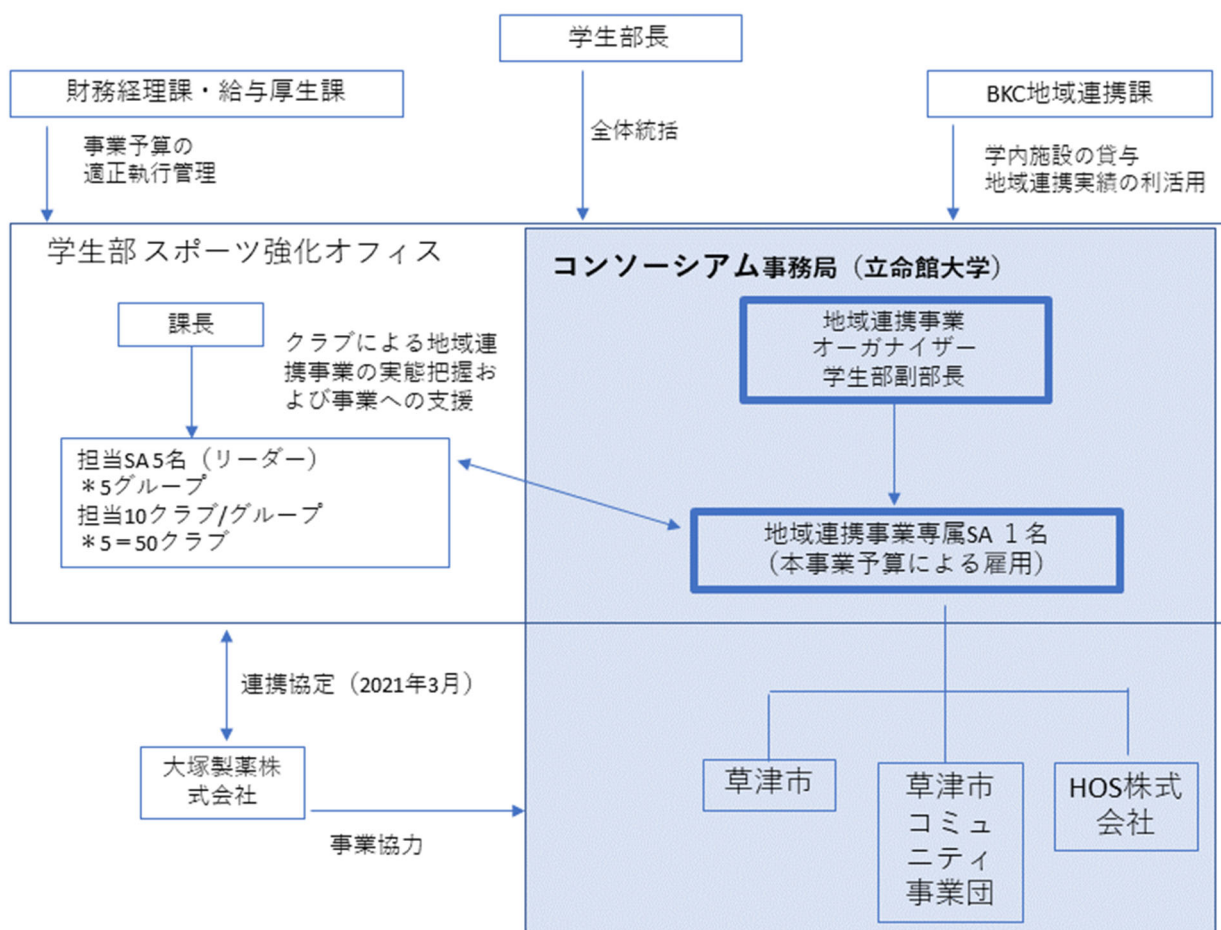
<クラブ基盤整備の取り組み>

- ・困りごとを抱えた大学アスリートの支援制度立案、実行（学業ガイドラインの整備等）・クラブの部長（教員）および副部長（職員に
関する制度設計および選定 など

<スポーツ振興の取り組み>

- ・大学スポーツコンソーシアムKANSAI（KCAA）の事務局業務
- ・スポーツ庁、UNIVAS対応
- ・地域と大学アスリートの接点を増やすための政策立案、学生団体（AVA）の支援
- ・一般学生と体育会学生の接点づくり、学園アイデンティティの醸成
- ・一般学生も含めたトレーニングおよびスポーツ活動環境の整備、健康増進の取り組み
- ・2020年東京オリパラ関わる各国代表チーム等の受け入れの制度検討 など

2.2 事業推進組織体制について



本学にとっては、新たな取り組みとなることから、事業予算より新たに専属のSA（スポーツアドミニストレーター（地域連携事業推進担当））を学生部副部長の元に配置し、既存の体育会クラブによる地域連携事業を所管するスポーツ強化オフィス内にタスクフォースとして設置する（但し、大学スポーツアドミニストレーターとしての新規雇用はなし）。加えて学生部副部長は草津市スポーツ振興事業団の評議員を担うなど草津市との交流が深く、コンソーシアム内の信頼関係は事業開始前より構築されているといえる。

2.3 事業の内容

2.3.1 第1回コンソーシアム会議（7月）

地域のスポーツ推進の現状と課題のすり合わせ

大学スポーツアドミニストレーターを配置するスポーツ強化オフィスが事務局となり、第1回コンソーシアム会議を7月末に開催し、地域住民の健康増進、学生と地域住民のスポーツを通じた交流を目的とした「立命スポーツ健幸キャンパス コンソーシアム事業」を展開することを確認した。

＜コンソーシアム構成員＞

- ・立命館大学（スポーツ資源の提供、スポーツ資源を活用したプログラムの作成、コンソーシアム事務局）
- ・草津市（まち・ひと・しごと創生戦略の実施主体、市民への周知、他関連団体との連携の推進）
- ・草津市コミュニティ事業団（草津市におけるコミュニティづくりの実施主体、市民団体との連携）
- ・草津市スポーツ振興事業体（地域スポーツ施設の維持管理、施設におけるスポーツプログラムの実施）
- ・HOS 株式会社（大学内のスポーツ施設の運営管理、大学内での地域向けスポーツプログラムの実施）

また、本学ならびに草津市における現状認識、今後の取り組みについての課題や方向性についても確認した。HOS 株式会社には各種プログラムの提案・提供など専門的知見を活用したコンソーシアム事業の推進に専門知識をもって協力することで同意を得た。

2.3.2 熱中症予防セミナーの実施

熱中症予防声かけプロジェクトが主催し、大塚製薬が協力する「熱中症対策アドバイザー養成講座」を、大塚製薬の協力を得て本学体育会学生を中心に、7 月から 8 月にかけて無料で受講できるようにした。資格を取得すると、アドバイザーには熱中症対策講座を行うための教材が提供されるため、これらを使い、アドバイザー資格を取得した学生が、自らの団体構成員（各クラブの部員）に対して、オンライン等でレクチャーを行うことにより、熱中症に関する情報を共有し、危険回避に役立てられるようにした。結果、今年度、各クラブから大学への熱中症での搬送等の緊急連絡はなかった。また、当初の計画ではこの資格を得た学生が、地域や小学校での出張講座を 8 月～9 月の期間に実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。



2.3.3 「ロクハ荘体力測定会 with 立命館相撲部&バトン部」(添付資料3)

熱中症予防セミナーの実施に代わり、地域住民の健康増進、本学学生と地域住民のスポーツを通じた交流を目的とした企画を草津市内で実施。企画の実施にあたり、コンソーシアムの構成員である草津市コミュニティ事業団の協力のもと、地域の福祉施設での企画開催が実現した。

コロナ禍において、実施予定であったイベントの中止が相次ぎ、運動施設の閉鎖や事業縮小、また外出自粛の要請も行われる中、地域市民、特に高齢者のコミュニケーション不足や運動不足による体力低下、気力の低下が懸念された。コンソーシアムの一員である草津市コミュニティ事業団より紹介を受け、草津市の福祉施設「長寿の郷ロクハ荘」にて地域市民向けの体力測定会を、新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じた上で開催した。体力測定会には、SA（スポーツ・アドミニストレーター）の呼びかけにより、立命館大学バトントワリング部と体育会相撲部の学生が測定員として参加し、体力測定後に演技を披露するなど、地域市民と学生が交流する機会となった。体力測定会と合わせて、認知機能の向上を目的としたトレーニングも実施した。

(1) 目的：

外出機会が減り、地域市民のコミュニケーション不足が問題となる中、体力測定を開催することでコミュニティ創りに寄与するとともに、健康増進にむけた意識の向上を図る。

また、地域市民と学生との交流機会を設け、スポーツに熱心に取り組む学生の活力を地域市民に届けることで、地域の活性化、地域と大学の豊かな関係づくりに繋げるものとする。

(2) 日時：

11月25日（木）

11：00～ 会場設営、スタッフ打合せ、試験計測

12：00～13：30 体力測定（終わった人から脳トレワーク）

13：30～13：40 会場片付け

13：45～14：00 相撲部紹介（実演含む）

14：00～14：15 バトン部紹介（実演含む）

14：15～14：30 アンケート回答

(3) 場所：草津市立長寿の郷 ロクハ荘（草津市追分7丁目11-2）

(4) 主催：立命館大学スポーツ強化オフィス

企画協力：HOS 株式会社

(5) 協力クラブ：立命館大学体育会相撲部、立命館バトントワリング部

(6) 参加対象者：地域市民 30 人程度（参加無料・事前予約制）

(7) 体力測定項目：

- ① アップ＆ゴーテスト
- ② スクワット（10 回）
- ③ 閉眼片足立ち
- ④ 認知テスト（TMT テスト）

上記の他、認知機能を高める運動として、コーディネーション・トレーニングを実施。

(8) 実施に際しての注意点：

- ① 学生、スタッフの毎日の体調記録（検温記録の確認）
- ② 入退室時の手指消毒、マスク着用の徹底。
- ③ 使用・着用する備品関係は使用前後にアルコール消毒を徹底。
- ④ 参加者同士、参加者とスタッフの間隔をあけた上でプログラムを実施する。
- ⑤ 実施後に体調不良となった場合、速やかに、立命館大学スポーツ強化オフィスへ連絡。

体力測定と認知機能テスト



コーディネーション・トレーニング



クラブ紹介と実演



<効果>

立命館大学が持つスポーツ資源を活用し、地域市民の健康増進を支援する機会を提供し、30名以上の地域市民が参加した。

企画後のアンケートでは、体力測定企画への高い満足度が確認できたとともに、多くの参加者から「より運動するきっかけになった」、「立命館大学のスポーツプログラム、学生の活躍に関心を持った」、「元気が出た」との回答が得られた。

2.3.4 「レッツ・エンジョイ・スポーツ！2021」

草津市内の全公立小学校 6 年生の児童（約 1,300 名）が大学内でスポーツを行う「ジュニア・スポーツ・フェスティバル Kusatsu」がコロナの影響により中止となったため、その代替イベントとして、体育会学生やトップアスリートによる出張授業を通じて、高学年の小学生にスポーツ体験を提供する企画を実施した。草津市教育委員会が主催、草津市との連携を踏まえたコンソーシアム事業としてアスリート派遣の協力を行い、各小学校で実施される「「レッツ・エンジョイ・スポーツ！2021」」として開催した。

具体的には、草津市内にある 14 の小学校のうち、アスリート派遣希望のあった小学校へ、プロスポーツアスリートや立命館大学の学生を派遣し、出張授業を開催した。アスリートや競技のことを「知る」、ハイレベルな技術や体力を「見る」、指導を受けながら一緒に「する」などの体験を通じて、運動やスポーツの楽しさ、すばらしさへ共感することで、生涯にわたるスポーツ活動への関心を高める機会とした。また、学生にとっても、クラブの紹介（実演）を行い、スポーツの楽しさを子どもたちへ伝えるなかで、地域における学生アスリートとしての役割・責任を自覚し、成長できる機会となった。

<実施例>

- 12/7 草津市立渋川小学校 滋賀レイクスターズ（プロバスケットボールチーム）
×立命館大学陸上競技部
- 12/17 草津市立南笠東小学校 〃
- 1/24 草津市立笠縫小学校 〃
- 12/7 草津市立草津第二小学校 滋賀レイクスターズ×立命館大学バスケットボール部
- 12/9 草津市立矢倉小学校 〃
- 12/16 草津市立志津南小学校 〃
- 12/17 草津市立老上小学校 立命館大学ラクロス部

※なお、滋賀レイクスターズについては、2022 年 4 月には、連携協力協定の締結を予定している。

12/7 草津市立草津第二小学校「滋賀レイクスターズ×立命館大学 バasketボール教室」



12/17 草津市立老上小学校 「立命館大学ラクロス部 ラクロス教室」



2.3.5 健康体験チャレンジ「スマート R・バイク・ザ・ライド/コーディネーション・プログラム体験」(添付資料 4)

<概要>

草津市スポーツ保健課を通じて、地域の大型商業施設「ショッピングセンター エイスクエア(敷地面積約 110,000 m²)」の紹介を受け、より多くの地域市民に大学のスポーツ資源を提供できるよう、SA(スポーツ・アドミニストレーター)が中心となり、地域市民の健康増進を目的とした企画を実施した。

具体的には、立命館大学が東洋紡と共同で開発したスマートウェア技術を応用した、フィットネスゲーム「スマート R・バイク・ザ・ライド」、様々なスポーツの基盤となる運動能力の向上を目指した「コーディネーション・プログラム」を地域市民向けに実施した。

(1) 目的：

多様な世代の地域市民が集う大型商業施設において、大学発のプログラムを広く提供することで、地域市民の健康増進にむけた意識の向上を図るとともに、大学が持つスポーツ資源に関心を持つ地域市民を増やし、地域と大学の豊かな関係づくりに繋げるものとする。また、親子や友人同士のチーム参加を促し、来場者同士のコミュニケーションを深める機会とする。

(2) 日時：

2月23日(水・祝)

09：00～	会場設営、スタッフ打合せ、試験計測
10：00～11：00	スマート R・バイク・ザ・ライド、 コーディネーション・プログラム
11：00～12：00	昼休憩(交代制)
12：00～15：00	スマート R・バイク・ザ・ライド、 コーディネーション・プログラム

(3) 場所：ショッピングセンター エイスクア(草津市西渋川1丁目23-1)

(4) 共催：立命館大学スポーツ強化オフィス・HOS株式会社・草津市
企画協力：ショッピングセンター エイスクア

(5) 参加対象者：地域市民(参加無料・事前予約なし)

(6) 実施内容：

①スマート R・バイク・ザ・ライド

・立命館大学が研究開発したスマートウェア技術を応用し、バイクを漕ぐことで上昇する心拍数を計測。スクリーンに映し出される恐竜が追いかけてくるなか、心拍数に応じて展開が変わるフィットネスゲーム。

・映像や音楽の演出により、ゲーム感覚で楽しみながら運動することで、無理なく運動の継続が可能。

②コーディネーション・プログラム

・多種多様な運動に工夫して取り組むことで神経系を刺激し、スムーズな身のこなしやボールのコントロールなど、様々なスポーツの基盤となる運動能力の向上を目指す。

(7) 実施に際しての注意点：

- ①スタッフの毎日の体調記録（検温記録の確認）
- ②入退室時の手指消毒、マスク着用の徹底。
- ③使用・着用する備品関係は使用前後にアルコール消毒を徹底。
- ④参加者同士、参加者とスタッフの間隔をあけた上でプログラムを実施する。
- ⑤実施後に体調不良となった場合、速やかに、立命館大学スポーツ強化オフィスへ連絡。

スマート R・バイク・ザ・ライド



スマート R・バイク・ザ・ライド ゲーム画面（参考）



コーディネーション・プログラム



<効果>

幼児及び低学年の児童を中心とした子ども連れの家族を中心に、約 150 人が参加した。特にこの世代の子どもを持つ親は運動実施率が下がる傾向にある中、運動習慣のない人や親子で運動を楽しんでもらう機会を提供し、幅広い世代へ運動習慣の啓発を行うことができた。

会場では、親子で力をあわせてバイクをこぐ姿や、何度もコーディネーション・プログラムに挑戦する子どもたちの笑顔があふれるなど、大いに盛り上がった。

参加者からは、「子供と大人と一緒に体を動かしながら楽しむことができて良かった」、「今後も地域の中で楽しく運動できるイベントを開催してほしい」などの声が寄せられた。

2.3.6 取り組みの可視化（3月）

立命館大学スポーツ強化オフィスのWEBページ上に「地域連携」ページを新たに作成した。今後、スポーツ・健康分野における地域連携の取り組みを更新予定。



3 今後の予定

本年度の事業として、4月時点では、以下の3点を具体的な事業として想定していた。

- 地域の特に高齢者の健康リスクを低減させるための熱中症予防セミナー
- 運動好きな青少年を育成するためのスポーツ体験の提供
- 多世代が交流することが可能な地域スポーツ大会

しかし残念ながら、コロナの影響により、事業の縮小・中止といった事が生じている。特に高齢者を対象としたものは可能な期間も限定され、健康増進と関わる健康寿命の延伸に向けた取り組みを積極的に展開することが困難であった。また、コンソーシアム会議についても、各主体のコロナの影響下での行動指針が異なっており、また主体によってはオンライン会議システムが十分に整備されていない、などの事情から、継続的に意見を交換する場を設ける事が困難であった。

上記のような点を踏まえた上で、2022年度以降については、当初の予定である下記について、今後のコロナの影響および初年度のスタートの遅れを踏まえて目標を修正のうえ、実施していく事とする。

【大学のスポーツ資源を活用したコンソーシアムの形成等】

・大学スポーツアドミニストレーターが中心となって地域で実施される大学スポーツ資源を活用した新規事業数

2022年度 10件 → 5件

2023年度 10件 → 7件

2024年度 10件 → 10件

・中長期目標（修正なし）

2024年度において、20歳以上の週1回30分以上のスポーツ実施率 65%以上(2019年度 56.0%)

2030年度 滋賀県の健康寿命の1歳の延伸

【地域活性化に向けた具体的な取組の推進】

・オンラインでの情報発信数

2022年度 100件以上 → 60件以上

2023年度 150件以上 → 80件以上

2024年度 150件以上 → 120件以上

・有観客の有料試合の数（修正なし）

2022年度 1試合

2023年度 2試合

2024年度 4試合

・中長期目標（修正なし）

2024 年度において、有観客・有料試合の観戦者数 6,000 人以上

2030 年度の有観客・有料試合の観戦者数 50,000 人以上

4 総括

本年度、スポーツアドミニストレーターが中心となって、地域のスポーツに関わる多様な主体がコンソーシアムを形成し、コロナによる影響を受けながらも、意見交換を行うとともに、地域のスポーツ実施率の向上や地域市民の健康増進に寄与する事業、かつコロナ禍の制約においても実施可能な事業から取り組んできた。残念ながら、当初想定していたような規模で事業を実施する事は困難であったが、スポーツアドミニストレーターを意識的に配置することによって初めて、大学組織として組織的に地域の多様な主体とのスポーツ活動での連携が可能となった。この事は大きな成果であると言える。

今後においては、本取り組みが一過性にならぬように、また 2021 年度に事業として取り組んだびわこ・くさつキャンパスだけでなく、3 キャンパスでの事業を実施できるように検討を進めていく。併せて、びわこ・くさつキャンパスにおいても、スポーツアドミニストレーターが中心となり、スポーツにおける産官学民の連携をより一層進め、地域における価値創造に寄与できるようにコンソーシアムとしての活動を進めていく。

立命館スポーツ宣言

立命館は、スポーツを人類共通の文化としてその意義と価値を享受することが、個人の幸福と、社会の平和と繁栄にとって不可欠なものであると考え、「立命館憲章」に基づきスポーツを学園づくりのための重要な要素として位置付ける。

立命館は、多様な学びの機会の創造という観点から、スポーツを児童・生徒・学生の「学びと成長の場」と見なし、スポーツの振興と発展に努めてきた。時代の変化に対応し、これまで以上に社会の要請に応えることができる人材を育成するとともに、スポーツの持つ力と役割を改めて学内外に示すことを目的とし、ここに立命館スポーツ宣言を定める。

立命館は、建学の精神と教学理念に基づき、高い水準で、スポーツの振興と発展を担い「未来を信じ、未来に生きる」の精神をもった人間の育成に努める。

立命館は、学祖西園寺公望の「自由主義と国際主義」の精神を受け継ぎ、スポーツの持つ力が言葉や文化、さらには民族、国境を越えた相互理解の手段となると考え、スポーツを通じて、自由にして進取の気風に富んだ国際平和と国際交流に寄与することのできる地球市民の育成に努める。

立命館は、私立の総合学園として、その教育課程においてスポーツをとおした全人教育を実践するとともに、クラブ・サークルをはじめとした課外自主活動の振興・発展と環境整備に努める。

立命館は、障がいの有無に関わらず、すべての学園構成員に、スポーツに参加する基本的権利を尊重すると共に、スポーツを日常生活に根付かせ、心身ともに健康な暮らしのために生涯にわたってスポーツに親しむことを奨励する。

立命館は、スポーツの文化価値とその教育における意義を深く認識し、スポーツに関する諸分野での教育・研究を高い水準で推進し、わが国のスポーツの振興・発展をリードする存在となるよう努める。

立命館は、スポーツが学園の理念を具現化する力を持ち、校友・父母を含む学園関係者が一体となることに貢献し、学園の発展を促す重要な原動力となると考え、この振興と発展に努める。

立命館は、スポーツを通じて、老若男女を越えた地域コミュニティの形成と発展に携わり、地域社会の健康で豊かなコミュニティづくりに貢献することを社会的役割の一つとする。

2014 年 4 月 9 日

学校法人立命館